

者多く又家族同伴者の多き新廣尾町、品川町及労働者の多き富川町、花町に日々の新規投宿者少なし、之を表示すれば左の如し。

第八〇表 地區に依り分ちたる新規投宿者

地 區	實 數		計	單身者並世帯主及其配偶者に對する百分比
	單身者	世帯主及其配偶者		
富川町	七〇	一三	八三	二・二
花 町	三六	六	四二	二・〇
淺 草 町	二九六	五四	三五〇	一五・六
小梅業平町	一〇二	四〇	一四二	八・二
永 住 町	二六	八	三四	四・九
旭 町	三九	一一	五〇	六・一
新廣尾町	七	二	九	一・八
品川町	九	四	一三	三・七
南千住町	二五	九	三四	一〇・〇
合 計	六二〇	一四七	七五七	六・一

(口) 移動原因と季節との關係 木賃宿泊者の増減の原因を探究するに、其増加の原因と認むべきは主として地方人の移住、地方行労働者の複歸、人夫親方部屋よりの轉宿及普通旅客の増加等にして此反對の現象は其減少の主因と認むべし、蓋し木賃宿泊者は主として下級労働者及諸露店商又は行

商人にして専ら労働需給の關係又は低廉なる住宅の多不足、生活の難易程度等に依り移動増減するものにして、従つて不景氣の年に宿泊者減じ又季節に依り移動増減あり、即地區に依り多少の相違あるも概して宿泊人の最も多きは十一月頃にして最も少なきは夏季六月頃なりとす、蓋し夏季に減少するは農繁の爲め地方へ一時出稼するもの多き爲めにして秋季より冬季にかけ漸次増加するは夏季に地方へ出たるもの、複歸するものと初冬に一時地方より出稼に入り來るものとの爲めなりとす、今之が觀察に資する好資料を有せざるを以て茲には單に扇橋警察署の調査に係る富川町に於ける大正十年中の木賃宿泊者の月別表を示さば左の如し。

第八一表 大正十年中富川町木賃宿泊者

月 別	一日平均		同上最小の月を以てしたる指數	一日平均宿泊客	同上最小の月を以てしたる指數
	投宿	出發			
一 月	一三三・二	一二七・五	一四九・七	三、八三三	一〇一・三
二 月	一三四・五	一三三・四	一四六・九	三、七六四	一〇〇・〇
三 月	一五六・五	一五〇・〇	一三七・〇	三、八七七	一〇一・一
四 月	一七九	一一四	二九三	三、九八八	一〇五・四
五 月	一九六	九一	一九七	四、〇五〇	一〇七・一
六 月	一九四	九三	一九七	三、九八八	一〇七・七
七 月	一九六	九三	一九九	三、八四三	一〇一・五
八 月	一〇一・五	九七・二	一九七	三、八七〇	一〇一・三

九	月	九六・九	九七・七	九六・六	一〇六・九	四〇・七	一〇六・二
十	月	九一・一	九三・三	八八・四	一〇〇・〇	四〇・九	一〇三・七
十一	月	二二・七	二二・二	三三・八	二二・一	四一・六	一一〇・四
十二	月	九三・三	九七・七	九六・〇	一〇六・六	四一・四	一一〇・三
計		一〇五・九	一〇五・五	一一一・三	一一二・四	三六・六	一〇五・九

右に依れば移動の最も少なきは十月、最も多きは一月にして十月の百に對し一三六・九を示せり、又宿泊客の最も少なき月は二月、最も多き月は十一月にして二月の百に對し一一〇・四を示し約一割の増加なり。

但右は營業主より呈出する投宿、出發届に依る事實なるが出發者は往々届出洩勝ちにして實際と多少の相違あり(約一ヶ年五十人)觀察に際し之が差率を考慮に加ふるを至當とすべきも茲には單に表の事實につき觀察せり。

(ハ) 上京の年月 市内木賃宿泊者にして地方出生者の初めて上京したる年に關しては今回の調査に於て全部申告ありたるが、斯の如き事項は正直なる申告を得るに難く果して正確なるものなりや疑なき能はざるも、今申告に依り大略の觀察を試みんに、上京後經過年數十年未満、二十年未満、三十年未満、四十年未満及四十年以上に分ち其割合を見れば、十年未満のものは約七割七分にして單身者と世帯主及其配偶者とを對比すれば十年未満のもの、割合前者より後者稍少なく其反對に後者

満のもの、割合前者より稍多し、而して地區を對比すれば小梅業平町最も十年未満の割合多く永住町最も少なし、即ち左表の如し。

第八二表 上京後經過年數に依り分ちたる宿泊者割合

地 區	十年未満	二十年	三十年	四十年	四十年以上	不詳	計
富川町	七六・三	三三・二	五・〇	二・五	〇・九	〇・二	一〇〇・〇
花 草町	七九・九	三三・七	五四・四	二・三	〇・四	〇・四	一〇〇・〇
淺草町	八〇・〇	二二・六	五五・五	二・二	〇・五	〇・二	一〇〇・〇
小梅業平町	八四・四	二二・〇	四九・九	二・〇	〇・七	〇・一	一〇〇・〇
永住町	五三・四	一九・二	九二・九	八・三	六・三	〇・三	一〇〇・〇
旭町	七〇・〇	一九・三	六三・三	二・二	一・一	〇・一	一〇〇・〇
新廣尾町	六八・八	二二・九	九三・三	三・六	一・六	五・八	一〇〇・〇
單身者	六八・八	二二・七	五三・三	二・七	一・三	〇・四	一〇〇・〇
世帯主及其配偶者	七三・八	二六・六	六九・九	二・六	〇・七	〇・五	一〇〇・〇
計	七三・一	二二・二	五七・七	二・七	一・〇	〇・五	一〇〇・〇

第八、教育關係

一、就學不就學 木賃宿泊者の内單身者は全部學齡を超えたるものゝみにして、學齡兒童中就學の始

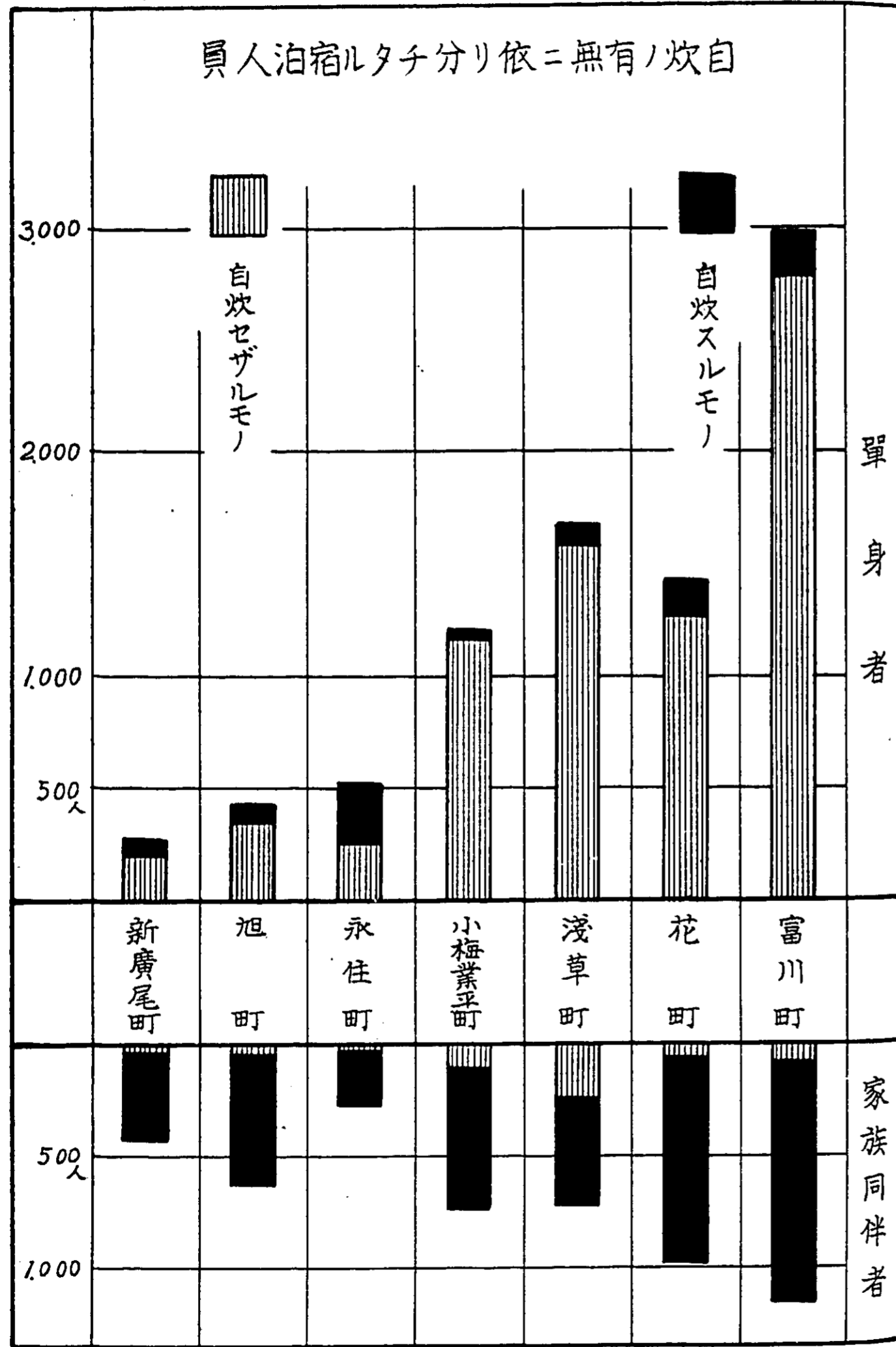
期に達したる者は家族同伴者に於ける世帯主及其配偶者を除きたる其他の家族にあるのみにして、其數五四〇を算し家族同伴者總數百に對し一〇・一又其他の家族總數百に對し三二・三を算す、今就學の始期に達したる學齡兒童中不就學の割合を見るに一三・五を示し男女を對比すれば男稍々女より割合多く、又地區を對比するに不就學の割合多きは品川町及旭町にして新廣尾町及富川町最も少なし、更に就學の始期に達したる學齡兒童中卒業者、中途退學者、通學中の三者の割合を見るに總數百に對し卒業者は五・二、中途退學者は九・八、通學中は七一・五を示し中途退學者の割合多きは淺草町にして富川町最も少なし、之を表示すれば左の如し。

第八三表 就學の始期に達したる學齡兒童

地 區	實 數			百 分 比		
	卒業	中途退學	通學中	卒業	中途退學	通學中
富川町	四	二〇	二四	二四	五九	一七・六
花 町	一	五	六	一三	六〇	二七・三
淺草町	二	七	九	六九	二四・一	五五・二
小梅菜平町	四	二〇	二四	六九	一七・二	一五・四
永住町	二	二	四	六三	三三・五	二五・〇
旭町	一	四	五	六九	三三・二	二五・九
新廣尾町	二〇	五	二五	一七九	八九	七四
計	二六	一〇六	一三二	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

二、教育程度 教育程度に關しては單身者と家族同伴者の世帯主及其配偶者に就き觀察すべし、單身者八、九一〇人の内小學卒業の者約四割、高等小學卒業したるもの一割七分、小學中途退學したるもの二割七分にして單に読み書き出来るものは僅かに一分、読み書き出来るものは八分、兩者合して九分、實數約八百人なり、又中等學校卒業者は同程度以上の者は二八六人其割合約三分にして内高等學校若は同程度以上の者五二人あり、又中等學校中途退學の者は三八二人割合約四分なり、而して世帯主を觀るに小學(尋常、高等)卒業者の割合は四割九分にして單身者の五割七分に比し割合少なく、之に反し小學中途退學者及讀書き出来るものは單身者より割合多し、又中等學校卒業以上の割合は兩者多く其差違を見ず、更に世帯主の配偶者(全部女)を見るに小學卒業(尋常、高等)者の割合(二割四分)單身者及世帯主(兩者とも殆んど男なり)に比し遙かに少なく之に反し読み書き出来るもの、割合(三割八分)及小學中途退學者の割合(三割八分)遙に多し、又中等教育を受けたるものは少なく其數九人なり、更に男女を對比するに概して女は教育程度の低きもの多く特に小學中途退學及読み書き

第十圖



出來ざるもの、割合男等に比し多し、即ち單身女に於て小學中途退學者の割合は三割三分（男は二割六分）読み書き出來ざるもの、割合は三割七分（男は八分）又女世帯主は小學中途退學二割四分（男は三割三分）又読み書き出來ざるもの四割五分（男は一割一分）を示せり、之を表示すれば左の如し。

第八四表 教育程度に依り分ちたる割合

教育程度	單身者		世帯主		其配偶者	
	男	女	男	女	男	女
高等學校若に同程度以上の者	0.6	—	0.5	—	0.5	—
中等學校卒業若に同程度の者	1.7	—	2.9	—	2.8	0.5
中等學校中途退學者は同程度の者	4.3	—	3.3	3.0	3.3	0.1
高等小學卒業者	13.0	4.0	16.9	—	15.5	4.3
小學卒業者	20.1	25.0	25.4	27.6	25.3	19.4
小學中途退學者	25.5	33.0	33.9	24.3	33.7	26.1
單に読み書き出來るもの、若は教育程度不詳のもの	1.1	1.0	0.6	—	0.6	0.1
読み書き出來ざるもの	9.6	23.0	10.2	47.2	11.3	27.6
通學中の者	—	—	—	—	—	—
學齡兒童中不就學者	—	—	—	—	—	—
就學年齡に達せざる者	—	—	—	—	—	—
計	100.0	103.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第九、自炊と外食

木賃宿泊者一四、二四〇人を自炊するもの（家族を含む）と否とに分つに、自炊をなすものは五、七五八人自炊せざるものは八、四八二人なり、而して單身者は殆んど全部自炊せず外食するものにして即ち單身者八、九一〇人の内自炊するものは僅かに九七六人にして約一割に過ぎず、又家族同伴者は單身者と異なり自炊家族多く家族同伴者一、九一二世帯の内自炊するもの一、六六三世帯人員四、七八二人又自炊せざるものは二四九世帯人員五四八人にして兩者の割合世帯數に於て自炊するもの八九・七%自炊せざるもの一〇・三%なり、之を表示すれば左の如し。

第八五表 自炊と否とに分ちたる宿泊者

世帯に於ける地位	實數		百分比	
	自炊するもの	自炊せざるもの	自炊するもの	自炊せざるもの
單身者	九七六	七、九三四	一一・〇	八九・〇
家族同伴者	一、六六三	二四九	一三・〇	一〇〇・〇
計	四、七八二	五、四八	一〇・三	一〇〇・〇

更に地區を對比するに單身者は自炊者と外食者との割合地區に依り大差あり、即ち外食者より自炊者の割合多きは品川町及永住町にして兩者とも約半數以上を占め、最も少なきは小梅業平町、淺草町及

富川町にして自炊するもの前者は百人につき三人後者は百人につき五人に過ぎず、又家族同伴者は單身者の如く兩者の割合大差なきも南千住町、浅草町の如き宿泊期間の短き普通旅客の割合に多き地區に外食者(自炊せざるもの)の割合多し、之を表示すれば左の如し。

第八六表 自炊と否とに依り分ちたる單身者

地 區	實 數		百 分 比	
	自 炊	外 食	自 炊	外 食
富 川 町	一七五	二、七八六	二、九六一	五・九
花 町	一五七	一、二五四	一、四一一	一一・一
浅 草 町	八八	一、五九六	一、六八四	五・二
小 梅 業 平 町	三九	一、一六一	一、二〇〇	三・二
永 住 町	二六〇	二五八	五一八	五〇・二
旭 町	七五	三四六	四二一	一七・八
新 廣 尾 町	六三	二二四	二七七	二二・七
品 川 町	八八	六四	一五二	五七・九
南 千 住 町	三一	二五五	二八六	一〇・八
合 計	九七六	七、九三四	八、九一〇	一一・〇

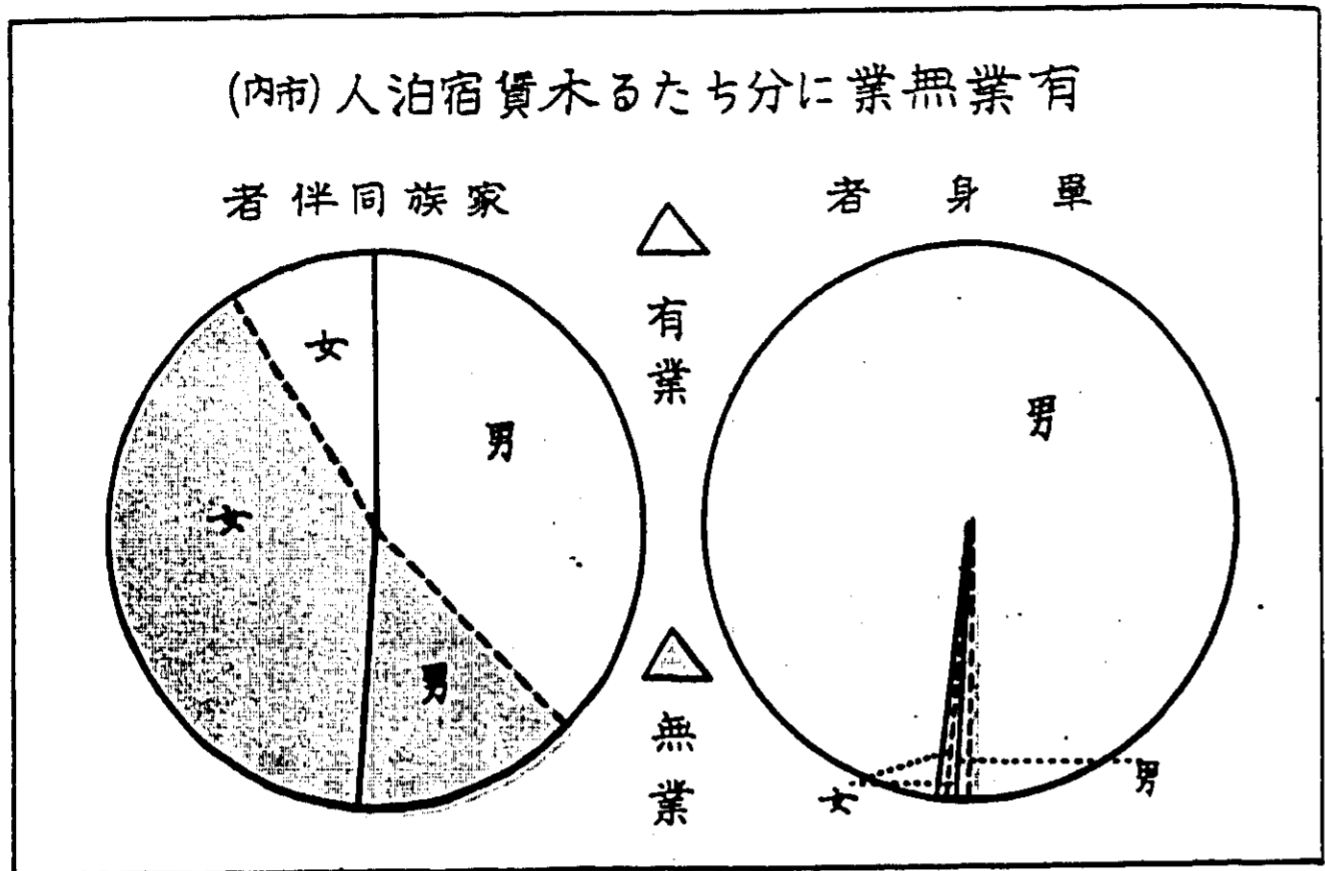
第八七表 自炊と否とに依り分ちたる家族同伴者

地 區	實 數		百 分 比	
	自 炊	外 食	自 炊	外 食
富 川 町	一三三	一、五六	一、八八	一、〇〇〇
花 町	一三	一、三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇
浅 草 町	一〇	一、五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇
小 梅 業 平 町	一五	一、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
永 住 町	一五	一、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
旭 町	一五	一、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
新 廣 尾 町	一三	一、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
品 川 町	一〇	一、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
南 千 住 町	一〇	一、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合 計	一、二九	一、二九	一、〇〇〇	一、〇〇〇

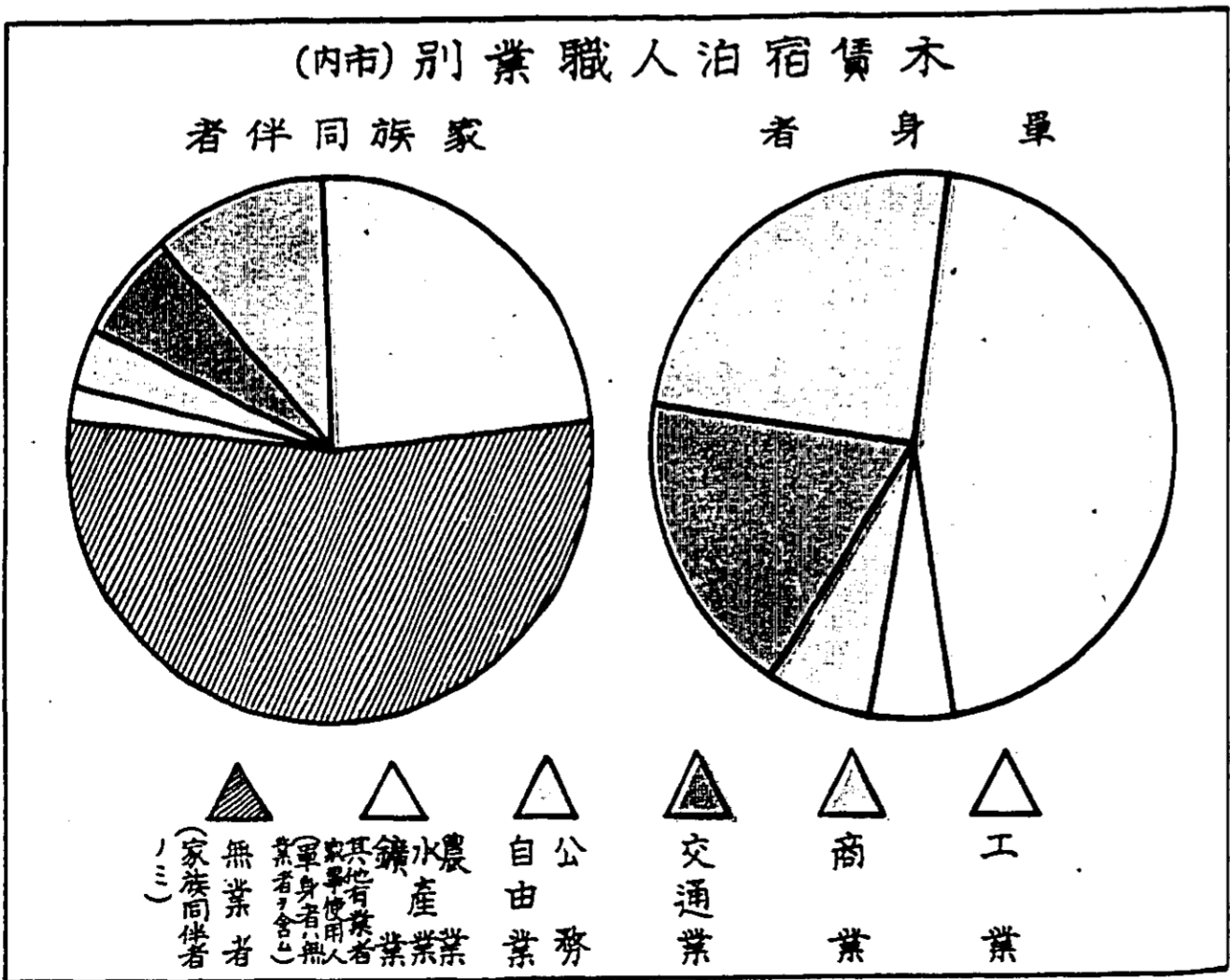
更に家族同伴者を家族數に分ち自炊と外食の世帯數を對比するに、二人家族は自炊八割外食二割、三人家族は自炊九割四分外食六分、四人家族は自炊九割七分外食三分又五人家族は自炊九割九分外食は僅かに一分に過ぎず、而して六人家族以上は外食者なく全部自炊なり、之に依り是を見れば家族數を増す毎に自炊する者増加し外食者減するを見る、即ち左表の如し。

第八八表 家族數に依り分ちたる自炊者と外食者

圖二十第



圖三十第



第十、職業

家族數	實數		百分比	
	自炊	外食	自炊	外食
二人家族	一、五九六	四一四	七九・四	二〇・六
三人家族	一、五二四	一〇五	九三・六	六・四
四人家族	七八〇	二四	九七・〇	三・〇
五人家族	五六〇	五	九九・一	〇・九
六人家族	二二八	五	一〇〇・〇	〇・〇
七人家族	三五	一	一〇〇・〇	〇・〇
八人家族	三二	一	一〇〇・〇	〇・〇
九人家族	二七	一	一〇〇・〇	〇・〇
計	四、七八二	五四八	八九・七	一〇・三
		五、三三〇		一〇〇・〇

一、有業者と無業者 調査當時に於ける木賃宿泊人(市内及品川町、南千住町)一四、二四〇人の内見物若くは所要の爲め一時出京宿泊したるもの一九六人を除きたる一四、〇四四人に就き有業者と無業者との割合を概るに

(イ) 單身者 は殆んど有業者なり、即ち單身者八、七七六人の内有業者は八、七一七人なるに無業者は僅かに五九人を算するのみにして無業者は總數の〇・七〇に過ぎず、又地區別に見るに無業者の

實數の最も多きは淺草町の一五人にして割合に於て多きは南千住町の一・七のみなりとす、之を表示すれば左の如し。

第八九表 有業無業に依り分ちたる單身者 實數及比例

地 區	實 數		比 例	
	有 業	無 業	有 業	無 業
富 川 町	二、九三五	一四	九九・六	〇・四
花 草 町	一、三九九	八	九九・四	〇・六
淺 草 町	一、五九三	一五	九九・一	〇・九
小 梅 業 平 町	一、一八〇	五	九九・六	〇・四
永 住 町	四九八	四	九九・二	〇・八
旭 町	四〇七	六	九八・五	一・五
新 廣 尾 町	二七六	一	一〇〇・〇	—
計	八、二八八	五二	九九・四	〇・六
品 川 町	一四八	二	九八・七	一・三
南 千 住 町	二八一	五	九八・三	一・七
計	四二九	七	九八・四	一・六
合 計	八、七一一	五九	九九・三	〇・七

(口) 家族同伴者 家族同伴者の有業者の總數は二、四四一人無業者の總數は二、八二七人にして其割

合有業者は四六・三%無業者五三・七%を示し有業者の割合無業者より稍多し、之を大正九年執行第一回國勢調査の結果に依る東京市の有業者四一・八%無業者五八・二%に比し木賃宿泊家族同伴者に於て有業者の割合稍多なるを觀る、更に世帯に於ける地位に分ち、有業者無業者を觀るに世帯主は一、八七九人の内殆んど全部有業者にして無業者は僅かに一八人に過ぎず、又配偶者は全部女にして其數一、六七二人の内有業者三七九人無業者一、二九三人其割合有業者二二・七%無業者七七・三%を示し有業者は無業者の約三分の一なりとす、其他の家族に於ては一、七一七人の内有業者は二〇一人無業者一、五一六人にして其割合有業者一一・七%無業者八八・三%を示し有業者は無業者の約七分の一なり、又世帯主一人に對する有業家族、無業家族の割合を算するに前者は〇・三人後者は一・五人の割合なりとす、而して其他の家族を男女別に有業無業兩者の數を觀るに男は有業者一二七人無業者七二一人即ち其割合有業者一五・〇%無業者八五・〇%にして女は有業者七四人無業者七九五其割合有業者八・五%無業者九一・五%を示し其他の家族に於ては有業者の割合女より男稍々大なり、之を表示すれば左の如し。

第九〇表 有業無業に分ちたる家族同伴者 實數及比例

世帯に於ける地位	實數		比例	
	有業	無業	有業	無業
世帯主	一、八三六	一二	一、八四八	九九・四
妻	一、八六一	一八	一、八七九	九九・〇
配偶者	三七九	一、二九三	一、六七二	二二・七
其他家族	七四	七九五	八六九	八・五
合計	二、四四一	二、八二七	五、二六八	四六・三

世帯に於ける地位	實數		比例	
	有業	無業	有業	無業
世帯主	一、九六三	七三三	二、六九六	七二・八
妻	四七八	二、〇九四	二、五七二	一八・六
配偶者	一、二九三	一、六七二	二、九六五	四三・六
其他家族	七三三	二、六九六	三、四二九	二一・二
合計	二、四四一	二、八二七	五、二六八	四六・三

更に家族同伴者を地區別に有業無業の割合を一瞥するに、有業者の割合大なるは淺草町の五五・一%にして又有業者の割合の小なるは旭町の四三・一%なり、概して子女を伴ふもの少なき地區は有業者の割合大なるに反し子女を伴ふもの多き地區に無業者の割合大なりとす、左に家族同伴者を世帯の地位に分ち地區別に有業者無業者の數を表示し以て参考の資に供せん。

第九一表 有業無業に分ちたる家族同伴者 實數及比例

地區	實數		比例	
	有業	無業	有業	無業
世帯主	一、九六三	七三三	二、六九六	七二・八
妻	四七八	二、〇九四	二、五七二	一八・六
配偶者	一、二九三	一、六七二	二、九六五	四三・六
其他家族	七三三	二、六九六	三、四二九	二一・二
合計	二、四四一	二、八二七	五、二六八	四六・三

南千住町			品川町			計			新廣尾町			旭町		
計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主
131	1	7	1	3	2	1	3	2	2	3	3	2	3	3
23	1	0	2	1	1	3	1	2	3	2	1	2	2	2
18	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

永住町			小梅葉平町			浅草町			花町			宮川町		
計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主	計	世帯主の配偶者 其他の家族	世帯主
13	7	6	3	0	3	3	7	2	4	7	5	4	3	3
13	7	5	4	1	3	3	5	1	4	3	1	7	6	4
13	8	9	7	2	6	3	9	5	1	5	3	1	2	7
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

計	世帯主		世帯主の配偶者		世帯主の家族		世帯主以外の家族		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
計	125	125	125	125	125	125	125	125	100.0
世帯主	125	125	125	125	125	125	125	125	100.0
世帯主の配偶者	125	125	125	125	125	125	125	125	100.0
世帯主の家族	125	125	125	125	125	125	125	125	100.0
世帯主以外の家族	125	125	125	125	125	125	125	125	100.0
計	125	125	125	125	125	125	125	125	100.0

二、職業大分類に依る有業者の職業 有業者全部を職業大分類に依り其數を求むれば左の如し。

第九二表 職業大分類に依り分らたる有業者 實數

職業	單身者		家族同伴者		計	
	男	女	男	女	男	女
計	125	125	125	125	125	125
農 業	125	125	125	125	125	125
水 産 業	125	125	125	125	125	125
工 業	125	125	125	125	125	125
商 業	125	125	125	125	125	125
交 通 業	125	125	125	125	125	125
公 務 自 由 業	125	125	125	125	125	125
其他有業者	125	125	125	125	125	125
家事使用人	125	125	125	125	125	125
計	125	125	125	125	125	125

第九三表 職業大分類に依り分らたる有業者 百分比

職業	單身者		家族同伴者		計	
	男	女	男	女	男	女
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
農 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
水 産 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
工 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
商 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
交 通 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
公 務 自 由 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
其他有業者	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
家事使用人	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

右に依れば單身者も家族同伴者も工業に従事するもの最も多く有業者總數の約五割を占め、亞で多きは商業、交通業にして他は尠なし、而して男女を比較するに單身者、家族同伴者相合して女の工業に従事する割合は男に比して遙かに多く、商業は男稍々女に比し割合大なり、然るに交通業は男の割合

女の割合より遙かに大に又公務自由業は反對に女の割合男の割合より多し、而して單身女は商業に従事するものゝ割合工業より大に且公務自由業の割合亦高きが、家族同伴者に於ける女は單身者女に反し工業に従事するもの商業に従事するものより割合大に又公務自由業割合に少なし、是單身者の女は露店商若は行商及諸遊藝人等獨立生活をなすものゝみにして家族同伴者の女は家計補助的職業者にして従つて土木建築等の諸人夫割合に多き爲めなりとす。

更に地區別に職業大分類に於ける割合を観るに、其数の少なき農業、水産業、鑛業等を除外し、先づ有業者中最も多數を占むる工業に就いて見るに、其従事する者の割合最も多きは旭町にして其割合の最も少なきは南千住町なり、又商業に従事する者の割合に多きは南千住町にして新廣尾町及富川町に於ては割合に少なし、又富川町には交通業に従事する者の割合は他の地區に於ける比より遙かに高く其割合の最も低きは旭町なりとす、而して公務自由業及其他の有業者の各地區に於ける割合は各地區間に多く其差違を見ず、左に之を表示せん。

第九四表 地區並職業大分類に依り分ちたる有業者——實數

地 區	有業者					計
	農業	水産業	鑛業	工業	商業	
富川町	三	三	一六	一四三	一六三	三、四三
花 町	八	二	七	七三	八六	一、八五八
淺草町	七	一	六	九元	二〇	一、九〇〇
小梅葉平町	五	一	三	二二	三〇	一、五〇五
永 住 町	五	一	三	二〇	二九	一、三〇〇
旭 町	三〇	一	三	二四	五八	一、七七八
新廣尾町	五	一	一	二五	三二	一、四〇四
計	一六	七	三〇	四、九〇	一、五〇五	一〇、五八
品川町	八	一	一	二五	三五	一、三〇〇
南千住町	一	一	一	九	一二	一、三〇〇
計	九	一	一	三〇	四一	一、三〇〇
合 計	一七	八	三二	五、二〇	一、五七五	二二、二五六

第九五表 地區並職業大分類に依り分ちたる有業者——百分比

地 區	有業者					計
	農業	水産業	鑛業	工業	商業	
富川町	〇・六	〇・一	〇・五	四・〇	一七・〇	一〇〇・〇
花 町	〇・五	〇・一	〇・五	四・一	一三・八	一〇〇・〇
淺草町	〇・四	一	〇・三	四・五	一三・一	一〇〇・〇
小梅葉平町	一・七	一	〇・八	一〇・六	一三・〇	一〇〇・〇
永 住 町	八・七	一	〇・五	四・七	一三・九	一〇〇・〇
旭 町	四・四	〇・一	一・九	三・〇	一〇・四	一〇〇・〇
新廣尾町	三・三	〇・二	一	三・九	八・五	一〇〇・〇
計	一・五	〇・一	〇・五	四・三	一三・八	一〇〇・〇

三、職業上の地位より観たる有業者

品川町	南千住町	合計
二・六	〇・三	一・五
〇・三	—	〇・三
—	—	—
四・一	三〇・三	三七・一
二七・一	四・九	三二・六
一四・一	一五・九	三〇・〇
八・五	八・六	一七・五
三・三	一・〇	六・八
—	—	二・四
—	—	〇・一
一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

(1) 總観 職業上の地位を (一)自己の職業を主宰經營するものを業主 (二)主宰經營者に使用され事務や技術に従事する者を職員 (三)勞務に従事する者を勞務者の三に分類し木賃宿泊者の有業者に就いて見るに、業主は一、二六六人職員は一四七人勞務者は九、七四五人にして勞務者最も多し、即ち其割合勞務者は全數の約八割七分業主は約一割餘職員は僅かに一分に満たず、今職業大分類の各分類毎に此三者の割合に就き觀察するに勞務者は各業を通じ割合最も多く業主は實數の多きは商業、工業、公務自由業の順なるも、割合は商業の三二・七%及公務自由業の二三・九%最多にして工業之に次ぐも其割合遙かに少なし、又職員は其實數は商業最多なるも割合は公務自由業に最多を見る、尙男女に分ち各割合を比較するに、業主の割合は男より女に於ける割合遙かに大なるに反し勞務者及職員は女の割合男より少なし、殊に商業に於ける業主及公務自由業に於ける職員の割合は男より女遙かに大なるを見る、之を表示すれば左の如し。

第九六表 職業上の地位に依り分ちたる有業者

職業	業主		職員		勞務者		業主	職員	勞務者	計
	計	割合	計	割合	計	割合				
農業	—	—	—	—	—	—	〇・六	—	—	—
畜業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
礦業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工業	一・七	一・八	一・一	一・八	一・五	一・八	—	—	—	—
商業	一・六	一・八	一・一	一・八	一・五	一・八	—	—	—	—
交通業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	一・七	一・八	一・一	一・八	一・五	一・八	—	—	—	—

合計	家事使用人		其他有業者		公務自由業	
	計	男女	計	男女	計	男女
計	1,101		1		1	
女	1,001					
男	100					
計	1,101		1		1	
女	1,001					
男	100					
計	1,101		1		1	
女	1,001					
男	100					

(口) 單身者と家族同伴者 更に單身者と家族同伴者に分ち、職業大分類に於ける職業上の地位の割合を對比するに、之又實数の多き工業商業交通業等の三、四に就き見るに、工業に於ては單身者も家族同伴者も職員の割合相等しくも業主は其割合單身者より家族同伴者の割合稍々多く、勞務者の割合は之に反し單身者稍々割合大なり又商業及公務自由業に於ては職員の比は兩者其差違を多く見ざるも業主は單身者より家族同伴者に於ける割合遙かに大にして勞務者は之に反し單身者の割合遙かに大なり、而して交通業に於ては業主及職員とも其數少なく殆んど勞務者のみなるを以て其比較す

べき差なし之を表示すれば左の如し。

第九七表 職業上の地位に依り分ちたる單身者及家族同伴者

職業大分類	職業上の地位	單身者		家族同伴者		計		單身者	家族同伴者	計
		數	百分比	數	百分比	數	百分比			
農業	業主	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
	職員	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
	勞務者	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
農産業	業主	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
	職員	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
	勞務者	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
工業	業主	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
	職員	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6
	勞務者	1	0.7	1	100.0	2	100.0	0.6	100.0	0.6

使家人事	有其業者他			自公自由業務			交通業			商業		
	勞務者	職員	業主	計	勞務者	職員	業主	計	勞務者	職員	業主	計
7	1	1	1	3	2	2	2	1	1	1	1	3
7	1	1	1	3	2	2	2	1	1	1	1	3
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

一四〇

又地區別に各地区に於ける三者の割合を観るに業主の割合の最も多きは品川町、職員の割合の最も多きは浅草町にして勞務者の割合の多きは富川町なりとす、即ち左表の如し。

第九八表 地區に依り分ちたる職業上の地位

品川町	新廣尼町	旭住町	永業平町	小梅草町	浅草町	花見町	富川町	實數			比					
								業主	職員	勞務者	計	業主	職員	勞務者	計	
1,148	60	110	100	121	132	171	151	133	33	33	33	133	100.0	100.0	100.0	100.0
1,148	60	110	100	121	132	171	151	133	33	33	33	133	100.0	100.0	100.0	100.0
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

一四一

南千住町	計	一、三三六	一、四七五	一、二五八	一、四一三	一四二	一〇・九	八・四	一〇〇・〇
合計	計	一、三三六	一、四七五	一、二五八	一、四一三	一四二	一〇・九	八・四	一〇〇・〇

更に参考の爲の職業中分類に分ちたる有業者数を掲記すれば左の如し。
 第九九表 職業中分類に依り分ちたる有業者

業種	實數		比例	
	男	女	男	女
農業	一七	三	一・六	〇・五
農耕、畜産、蠶業	一七	三	一・六	〇・五
林業	一	一	一	一
水産業	一七	一	一・六	〇・五
漁業、製鹽業	一七	一	一・六	〇・五
採石業	八	一	〇・一	一
採金業	八	一	〇・一	一
鑛業	一六	一	〇・二	一
鑛石採取業	一六	一	〇・二	一
蒸餾業	五	一	〇・五	一
金屈工業	三	一	〇・三	一
機械器具製造業	三	一	〇・三	一
化學工業	六	一	〇・七	一
紙業	四	一	〇・四	一
紙維工業	四	一	〇・四	一
皮革、骨、角、甲、羽毛品製造業	二	一	〇・一	一
木、竹類に關する製造業	二	一	〇・一	一
飲食料品、嗜好品製造業	二七	一七	一・六	一・七
被服、身の廻り品製造業	二七	一七	一・六	一・七
土木建築業	三三	一〇	二・三	一・二
製版印刷、製本業	二五	一	一・一	〇・三
學藝、娛樂、裝飾品製造業	二〇	一〇	一・一	一・八
瓦斯、電氣及天然力利用に關する業	二四	一〇	一・一	一・八
其他の工業	四	〇	〇・五	一・一
計	四八六	三三	四六・〇	五九・八
物品販賣業	一、四七五	五、三〇〇	一八・二	一六・二
媒介周旋業	二六	一六	一・一	一・一
金融保險業	三三	三三	〇・一	一・〇
物品貸貸業、預り業	四〇	一	〇・四	一
旅館、飲食店、浴場業等	三三	一六	二・一	一・六
其他の商業	二七	九	二・六	一・六
計	一、〇三六	二、五七六	一四・六	三三・五
合計	五、九〇一	五、八七六	一四二	一四二

業種	實數		比例	
	男	女	男	女
織維工業	一〇	四	一・〇	八・一
紙業	四	一	〇・五	二・五
皮革、骨、角、甲、羽毛品製造業	二	一	〇・一	〇・四
木、竹類に關する製造業	二	一	〇・一	一・三
飲食料品、嗜好品製造業	二七	一七	一・六	一・七
被服、身の廻り品製造業	二七	一七	一・六	一・七
土木建築業	三三	一〇	二・三	一・二
製版印刷、製本業	二五	一	一・一	〇・三
學藝、娛樂、裝飾品製造業	二〇	一〇	一・一	一・八
瓦斯、電氣及天然力利用に關する業	二四	一〇	一・一	一・八
其他の工業	四	〇	〇・五	一・一
計	四八六	三三	四六・〇	五九・八
物品販賣業	一、四七五	五、三〇〇	一八・二	一六・二
媒介周旋業	二六	一六	一・一	一・一
金融保險業	三三	三三	〇・一	一・〇
物品貸貸業、預り業	四〇	一	〇・四	一
旅館、飲食店、浴場業等	三三	一六	二・一	一・六
其他の商業	二七	九	二・六	一・六
計	一、〇三六	二、五七六	一四・六	三三・五
合計	五、九〇一	五、八七六	一四二	一四二

四、業體より觀たる有業者

合 計	使 用 人 計	家 事 使 用 人 計	其 他 の 有 業 者 計	自 由 業 務							交 通 業			
				其 他 の 自 由 業 者 計	其 他 の 自 由 業 者 計	記 者 著 述 者 計	法 務 業 者 計	醫 務 業 者 計	教 育 業 者 計	宗 教 業 者 計	官 吏 公 吏 雇 員 計	陸 海 軍 人 員 計	通 信 業 者 計	運 送 業 者 計
10,503	5	5	2,266	2,266	633	8	26	27	4	35	5	4,045	1,857	6
555	6	6	33	33	35	2	1	1	3	1	7	5	1	1
2,168	2	2	2,233	2,233	288	6	7	4	8	6	3	50	1,856	6
100.0	0.0	0.0	21.2	21.2	2.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	4.8	17.7	0.0
100.0	1.1	1.1	21.2	21.2	2.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	4.8	17.7	0.0
100.0	0.1	0.1	21.2	21.2	2.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	4.8	17.7	0.0

一四四

(1) 勞務者

(1) 總觀 木賃宿泊者の有業者の職業上の地位に於て最も多數を占むる勞務者の業體を見るに、殆んど下級勞働に従事する所謂自由勞働者にして職工及少數の諸職人等を除く外全部雇傭關係は日雇なりとす、只業務の都合上及一種の見得若くは自負心より一定の業務以外全く若くは殆んど他業務に就かざるものあり、諸職人及熟練を要する諸人夫等之に屬し、又日々仕事の都合に依り又は勝手に各種の業務に轉々するあり、或は季節に従ひ移動するあり、諸手傳人夫及雜役人夫等多く之なり、而して兩者を通じて仕事の都合に依り繼續的に雇はるゝ場合なきに非らざるも概して日雇にして勞働需給の状態又は天候の如何に依り仕事なければ休業するが常なり、今勞務者を職業名に分ち其數を算すれば左表の如し。(表中×印は外書したるものなり)

第一〇〇表 職業名に依り分らるる勞務者

職 業	實 數		比 例	
	單身者	家族同伴者	單身者	家族同伴者
鍛冶工及鑄物工	29	3	1.5	1.6
機械工及車輛工	6	2	1.0	1.1
木挽及木工	6	3	0.2	0.3
指物職及箱工	2	7	0.3	0.5
印刷職及活版工	6	5	1.0	1.0
計	51	22	1.0	1.0

一四五

小計	諸職人										小計							
	手傳人夫					諸職人												
	其 他	瓦 職 手 傳	煉 瓦 職 手 傳	左 官 手 傳	石 工 手 傳	大 工 手 傳	薦 職 手 傳	土 工 手 傳	其 他 の 各 職	製 圖 工 職		煙 道 職	ハ ン キ 職	鉢 力 職	井 戸 職	屋 根 職	瓦 職	煉 瓦 職
二七四	八	三	三	一三	七	七	一六	三三	一〇	三	七	〇	二〇	八	五	三	二	二七
六六	八	八	五	元	三	七	三	一〇	四	一	一	二	三	二	三	七	三	二
三三	一〇	五	三	二	七	三	三	四	四	八	四	三	二	二	六	四	一	七
三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

一四七

小計	職工及之に類する職人										小計						
	諸工夫					職工及之に類する職人											
	其 他	葉 子 職 及 其 他 飲 食 品 製 造	煙 草 製 造 職 工	履 草 製 造 職 工	洋 服 裁 縫 職 及 製 帽 職	染 物 職	織 物 職	鑄 工 職	硝 子 工 職	水 道 工 夫		道 路 工 夫	電 氣 電 信 諸 工 夫	其 他 の 諸 工 夫	土 工 職	瓦 工 職	石 工 職
三〇	三	一	六	九	九	九	七	五	三	三	五	二	〇	二	三	三	五
六	六	三	一	一	八	〇	四	三	三	四	五	四	六	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

一四六

其他											諸人夫				
家	諸	貸	宿	飲	下	理	同	植	小	計	人	の	其	葬	
事	商	座	倉	給	足	發	手	木	計	計	夫	諸	他	式	
使	店	敷	店	仕、	番	職	傳	職				諸	諸	人	
用	雇	雇	雇	小	使	職	傳	職				工	會	夫	
人	人	人	人	使	番	職	傳	職				場	社	夫	
				使	番	職	傳	職				働	働	夫	
				使	番	職	傳	職				人	人	夫	
				使	番	職	傳	職				夫	夫	夫	
				使	番	職	傳	職				夫	夫	夫	
				使	番	職	傳	職				夫	夫	夫	
				使	番	職	傳	職				夫	夫	夫	
三	六	八	三	七	八	三	六	五	1,006	1,149	350	196	1,063	1,212	
四	七	一	一	九	一	一	四	三	二二	101	六	六	三三	三三	
七	三	六	三	二	七	八	一	七	一八九	1,550	四七	二四	三三	一四	
〇・〇	〇・九	〇・二	〇・二	〇・一	〇・一	〇・一	一・〇	〇・七	二〇・七	一六・一	五・〇	二・六	三・八	一・四	
二・〇	〇・八	一	一	〇・四	〇・一	一	〇・七	一・〇	一四・六	10・0	四・四	〇・八	二・四	一・三	
一・〇	〇・八	〇・二	〇・一	〇・三	〇・一	〇・一	一・〇	〇・七	一九・五	一四・九	四・九	二・二	三・五	一・六	

一四九

運輸及之類											諸人夫			
車	石	荷	配	背	魚	小	掃	下	撒	廣	裝	力	土	人
力	炭	造	達	物	市	揚	除	水	水	告	飾	會	砂	力
力	人	人	夫	市	場	、	人	人	人	人	人	場	働	挽
力	夫	夫	(諸	諸	及	人	人	人	夫	夫	働	車	車
力	(夫	郵	人	人	小	夫	夫	夫	夫	夫	車	力	力
力	車	人	便	夫	夫	揚	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	及	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	仲	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	仕	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	押	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
力	力	夫	夫	夫	夫	計	夫	夫	夫	夫	夫	力	力	力
三	七	〇	三	一〇	一	三	三	三	〇	一	三	四	五	四
三	七	〇	三	一〇	一	三	三	三	〇	一	三	四	五	四
三	七	〇	三	一〇	一	三	三	三	〇	一	三	四	五	四
〇・三	〇・九	〇・三	〇・三	一・三	一	三	三	三	〇・三	〇・二	二九・六	一・九	四・七	〇・三
〇・〇	〇・〇	〇・五	〇・五	一・〇	一	三	三	三	〇・〇	〇・一	二・三	〇・六	二・五	〇・二
〇・二	〇・七	〇・三	〇・三	一・二	一	三	三	三	〇・三	〇・二	二九・九	一・六	四・二	〇・三

一四八

總計	内職					合計	合	
	手殺	草履	洗濯	裁縫	其他		小	其
七、七五二	二	三	一	三	八	七、七五二	一、九七七	一、〇二二
二、〇〇三	二	三	四	七	六	二、〇〇三	九、七五四	一、〇二二
九、七五五	二	五	四	三	七	九、七五五	九、九	一、〇二二
一〇〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・一	一〇〇・〇	六・二	一、〇二二
一〇〇・〇	一・二	一・一	〇・二	二・〇	四・八	一〇〇・〇	六・五	一、〇二二
一〇〇・〇	〇・三	〇・三	〇・〇	〇・四	一・一	一〇〇・〇	六・九	一、〇二二

右に依れば業體分類より見れば土木及建築に關する諸職人及同手傳人夫最も多く總數の三分の一を占め、亞で多きは運輸及之に類する諸人夫なり、又職業別にすれば土工最も多く亞で多きは車力なり。

(ロ) 單身者と家族同伴者 勞務者の業體を單身者と家族同伴者と對比するに、兩者略々相似たるも單身者に割合多くして家族同伴者に割合少なき職業あり、又其反對に單身者に割合少なくて家族同伴者に割合多き職業あり、即ち小揚人夫諸會社諸官署の諸人夫は單身者に割合多く各種職工等は

家族同伴者に割合多し。(前表参照)

(ハ) 地區別 更に地區別に對比するに勞働需給其他の事情に由り、地區に従ひ多少の相違あり、其特殊のものを擧ぐれば、石炭人夫は富川町に割合最も多く諸車力は花町、新廣尾町に割合多く土工及其手傳の割合多きは旭町、品川町及小梅業平町にして又永住町に植木職手傳、南千住町には青物市場人夫割合に多し、而して淺草町は土工の割合最も多きも他地區に比し特に多きにも非らず、今主なる勞務者の職業を地區別に表示すれば左の如し。(表中×印は外書したるものなり)

第一〇一表 地區に依り分ちたる勞務者——實數

職	業	富川町	花町	淺草町	小梅業平町	永住町	旭町	新廣尾町	品川町	南千住町	合計
鍛冶工	及鑄物工	四	元	元	元	二	一	九	一	一	一五
機械工	及車輛工	六	八	三	五	二	一	六	二	二	二五
水道工	夫	六	三	一	一	七	三	一	一	一	一八
道路工	夫	六	三	一	一	七	三	一	一	一	一八
土工	夫	六	三	一	一	七	三	一	一	一	一八
職	職	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大工	職	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
左官	職	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
瓦職	職	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一